

日本における韓国家族研究の変遷

林史樹

1. 戦後の韓国家族

韓国社会では、一般的に儒教の影響が色濃い家族関係が続いてきたといわれる。家父長制、戸主相続をはじめとする戸主制、同姓同本禁婚がその最たるものとして考えられてきた。とくに家父長制や戸主制に対しては儒教的といわれる反面、それを制度として敢行した日本植民地時代の残滓ともいわれる。しかし、近年になって家族関係が大きく変化してきた。1990年に公布された「民法中改正法律」による家族法の大変革はそれを象徴している。戸主相続制が否認され、夫婦平等と男女平等が謳われるようになったのである。

ところが、ごく最近にも家族法改正をめぐって韓国国内で議論が繰り広げられ、新たな改正案が国会の本会議を通過した。これは韓国における家族像がその後も急速に変化し続けていることを意味している。韓国における家族は今後いかに変化していくのであろうか。隣国におけるそのような家族の変化を日本ではいかにみつめてきたのであろうか。ここでは日本語でかかれた、つまり主に日本人々に向けて発信された韓国の家族に関する先行文献を整理することで、我々がいかなる関心から韓国の家族を対象化してきたのかを概観し、また今後も隣国の家族をいかなる視点からみつめていくのかを展望する。それはまさに日本における家族の変化を、社会の仕組みが比較的似た地域を通して知ろうとする試みであり、日本の家族をかえりみる視点がその試みに隠されているのである。

韓国社会は1960年代から急激な社会変動を迎え、その過程で離婚率の上昇などの変化がみられた〔金疇洙 2004:141〕。それを経済成長とともに、韓国の人々がもっていた伝統的な、つまり儒教的とされる家族観が変化したととらえるのがこれまで一般的であった。

ただし、それをもって単に韓国社会における儒教的な家族観が衰退したととるのは早計であろう。確かに1973年に朴正熙がだした「家庭儀礼準則」などは過度に執り行われる儒教的な儀礼に対し、歯止めをかけた。しかし実際は、1960年代からの朴政権はむしろ韓国社会の儒教化を進めるものであった。「親に孝道を、国へ忠誠を」などの標語を打ちたて、儒教を韓国独自の近代化を支える社会秩序の根本とみなし、セマウル教育のなかでも強調したのである〔伊藤 1996:232〕。経済成長で国民の家族観が揺れるなか、できるだけ揺れないように人々をまとめることで経済成長を促したのであるが、そのために高度経済成長に向かう1960年からの30年あまりの間に近代家父長的性別分業が固定化していったともいわれる〔洪上旭 2004:168〕。経済成長による社会変動によって家族観の変化が促進される方向と、経済成長のために伝統的な家族観を維持しようとする方向という、家族観に対して相矛盾する2つの方向から力が加わった時代といえる。

しかし、暗殺というかたちで指導者が代わり、儒教的な価値観をおす政策にも転換がみられる。また国民も徐々に経済力の向上を実感しはじめる。そして、1986年のアジア大会と1988年のソウルオリンピックを経て実感が自信へと代わるのである。さらに1990年代に

入ると、韓国は軍事政権にとって代わり、文民政権を迎えた。このことは国民に意識面で抑圧からの解放をもたらした。その後も経済成長はとまらず、1995年には国民所得が1万ドルを突破するなど、個人が経済的な豊かさを手に入れた。経済力の向上と抑圧からの解放は、拘束力の強かった家族関係にも影響を及ぼしたといえる。

以上のような経済成長に加えて都市化が進み、少子化や核家族化、キリスト教信者の増加、女性の社会進出などが、家族に対して影響をもたらした。

まず、家族の少人数化・核家族化である。1-4人で構成される世帯の比率が1960年の35.9%から、1995年の86.6%に増加した一方、同期間、7人以上で構成される世帯の比率が32.9%から0.9%に激減した〔金疇洙 2004:143〕。都市化にともなう核家族化は家族関係に変化を及ぼす大きな要因されている。

この問題は韓国でも近年にみられる少子化とも関連している。少子化の直接的な要因である出産率低下は高齢化問題と合わせて韓国でも深刻である。韓国が高度経済成長を迎える初期にあたる1970年には出産率も4.53人であったが、1984年に初めて2人を切り、2002年には最低の1.17人、2003年で1.19人という極度な出産率低下を迎えている。同様に日本と比較してみると、韓国の1970年に近い数値は1947年の4.54人であり、1970年にはすでに2.13人となっており、2人を切るのは1975年である。ところが、日本の場合、低下の割合が比較的長い傾斜率で続いている。そのため、2002年のデータでは日本も出産率が1.32人と低いものの、むしろ韓国の方が低い出産率となっている。つまり、それほど急激に韓国社会の方が出産率低下の問題にさらされているといえる。

この出産率低下の問題は晩婚化が一翼を担っているが、2003年度にだされた韓国統計庁の『韓国の社会指標』によれば、男子の平均初婚年齢が2002年で29.8歳、女子が27.0歳となっている〔統計庁 2003:127〕。とくに女子の平均初婚率が1990年までも24.8歳であったことを考えあわせると、急激に晩婚化が進んでいることがわかる。同様に近年に晩婚化が進む日本と比較すると、2002年で男性が29.1歳、女性が27.4歳となっており、男性では日本より晩婚化が急速に進んでいる。晩婚化は今後も進む傾向にあり、出産率低下がさらに進むことが予測される。

同時に、キリスト教信者の増加も家族のあり方を変えてきた。それは近年において女兒を望む家庭が増えたこととも関連する。これまでは儒教的な祭祀を遂行していくうえで男児出産が不可欠とされたが、それから脱する傾向がみられた。このことはたぶんキリスト教信者の増加とかかわりがあると思われる。1960年代から1970年代にかけて急速に信徒を増やしたキリスト教が朴正熙政権を経て、徐々に生活に浸透していくにつれ、家族に対するこれまでの儒教的な価値観を改めていったのである。近年のキリスト教の信者のなかには、これまで伝統として執り行ってきた儒教的な祭祀を行わない者が増加し、そのために男児出産にこだわる必要がなくなった。これまでは、女兒を出産した家庭では強く男児を望んで子を産み続ける傾向がみられたが、とくに男児を出産する必然性がなくなったため、女兒で満足してそれ以上の出産を望まない夫婦が増えたのである。

また家族像の変化は、伝統的な役割分担の変化も引き起こした。韓国社会においても男性が職場で稼ぎ、女性が家庭を守るといった図式が一般的で、女性の社会進出はかぎられていた。ところが経済成長期に入る1960年代末から女性の社会進出が高まる〔洪上旭 2004:170〕。とくに統計指標などにみる経済活動参加率に表れない経済活動の質が向上した点がもっと強調されてよい。このことは女性の高学歴化とも関係している。韓国では義務教育から外れている高校進学に関して、1980年までも男子が70.3%に対して、女子が56.2%と10数%の格差があったが、その格差は1980年代半ばから徐々に縮まり、1990年代半ばからはほぼ男女同数になっている〔統計庁 2003:238〕。さらに、離婚は女性に問題があるとされ、離婚した女性に対する偏見は強く、再婚もかぎられていた。そのため、実質上、女性は男性に従属することを強いられ、その従属のもとに家族が成立していた。

ところが、女性の社会進出が一般的になり、離婚に対する偏見も減少することで、これまでの男性優位の家族関係に変化がみられるようになった。総結婚件数と総離婚件数を比較しても、1980年には40万3031件の結婚件数に対し、2万3662件の離婚件数であったのが、2002年には30万6573件の結婚件数に対し、14万5324件にまで離婚件数が増加している〔統計庁 2003:128〕。これは2002年の日本の75万7000件の結婚件数、29万件的離婚件数と比べても高い離婚率といえる。

以上の流れのなかで変容してきた隣国の家族観を、日本ではいかに対象化させてきたのであろうか。

2. これまでに指摘された韓国の家族に関する研究動向

韓国の家族に関する研究動向について、日本語で公表された主なものとしては、次の2本があげられる。1つは井上和枝〔1985〕による朝鮮家族史研究の動向に関する論考、もう1つは国際会議「Families in Aging Society」を中心とした、金貞任・杉岡直人〔2001〕による韓国家族研究の動向に関する論考である。

井上によれば、「朝鮮史における家族研究は、日本の朝鮮支配の円滑化と、漸次内地化を図るための旧慣調査の一環として始まった」〔井上 1985:43〕ことになる。また、そのように出発した朝鮮家族史研究は戦後の日本においては不活発であった〔井上 1985:43〕。井上は、家族形態や婚姻、相続、養子、族譜といった周辺分野も取り込んだ研究自体も概説しているが、文献を通して朝鮮家族の変遷を紹介することが主になっている。つまり、家族研究の動向紹介より、むしろ韓国に関する個々の家族研究を紹介しながら家族関係の時代的な変化を指摘することに力点が置かれているといえる。

それに比べて、金貞任と杉岡直人〔金・杉岡 2001〕は、より包括的に家族研究の動向を報告している。金貞任らによれば、韓国における家族研究を日本の植民地時代からはじまるとし、当時の家族研究の範囲が婚姻制度、離婚制度、族譜、同族部落、祖先崇拜などであった。ところが、朝鮮戦争などが発生した1950年代には家族研究が韓国でもあまり行われず、1960年代も家族形態と出産の関係や家族の規模や類型に関する研究がでるものの、

あまり活発でなかった。1970年代から研究が活発化し、結婚、親族・同族、家族の規模・役割・価値観、家族適応や機能、共稼ぎ、相続制度など多岐にわたってきた。家族研究が発展したのが1980年代で、社会学のみならず、家政学的な研究もでてきたほか、個人研究以外に共同研究が増加した。研究内容もより個人々の家庭生活と関連があるミクロ分析がなされるようになり、多変量分析を用いるなど分析方法がより精密になった。1990年代になるとさらにすそ野が広がり、多様な分野間での共同研究が進んだ。

それでは、これらの先行文献で紹介された韓国の家族を取り巻く変化に対し、日本ではいかに韓国家族を扱い、また関心を払ってきたのだろうか。本報告書で後掲した、日本語でかかれた主要文献リストをもとに日本が韓国家族をどのような問題関心からとらえてきたのかを考察してみたい。

もちろん、日本語文献がすべて日本人研究者によるものとはかぎらないが、日本社会という枠のなかででてきた問題を反映していると考えられる。

3. 文献リストにみる韓国の家族に関する研究動向

時期を戦後からにあてているが、1950年前後には植民地時代に研究活動を行っていた善生永助や秋葉隆らによっていくつか関連した論考がだされる。その後にてでくるのはいわゆる韓国人研究者による研究が続く。そのなかででてきたのが、1973年に刊行された『韓国農村の家族と祭儀』（中根千枝編）である。このころは民俗学や人類学からの観点から家族が扱われることが多かった。伊藤重人や嶋陸奥彦ら、韓国の文化人類学研究の第一世代の研究者が執筆しており、植民地時代と切り離されてだされた初めての文化人類学的な韓国家族に関する研究書といえる。また、これに続いて金宅圭や崔龍基などの論文が岩波書店「講座家族」のシリーズで取り扱われるのも、日本の家族研究という枠のなかから他地域に広げるかたちで韓国がとらえられはじめたことがわかる。つまり、戦後25年をすぎて、やっとこれまでの植民地主義的な観点から離れたかたちで韓国家族が扱われはじめたのである。さらに社会学的なアプローチから韓国経済を読み解こうとする服部民夫の論考がでてくるのも1970年代半ばからであった。このように考えたとき、日本において「韓国家族」がようやく注目されはじめたのが1970年代に入ってからであったといえる。このように戦後から少し期間が空いたのも、日本人が容易に渡航できるようになったのが日韓国交正常化以降であり、1965年という年が研究の活発化と関係していたためである。

日本における家族研究同様に、韓国における家族研究も基本的に農村家族研究からはじまっているが、1970年代にはすでに韓国社会が大きく変動を迎えていた。そこで農村家族研究に混じって山中美由紀 [1978] による都市家族研究が行われたり、稲葉継男 [1977] のように学校などの制度と家庭を同時にとらえていく発想がでてくる。経済五ヶ年計画が進み、農村部ではセマウル運動が推進される。年平均10%の高度経済成長が続くなか、都市問題も注目された年代から日本において韓国家族研究が本格化しはじめたため、同時に都市における家族研究も進んでいったと考えられる。

1980年代に入って引き続き、韓国家族研究が日本で進められていく。ただ、重松真由美 [1982]、伊藤亜人 [1983] をはじめ、朴恵信 [1984]、山中美由紀 [1985] が1980年代初めにはすでに女性に着目した論考をだしたり、韓国人研究者である李光奎 [1982] が現代を先取りしてすでに老人問題に着目していたことが興味深い。青少年に対しても、坂元一光 [1983, 1985] が論考をだすなど、家族成員に対しても関心が払われていた。これらも同様に日本での家族研究傾向がそのまま韓国にも反映されたものと思われる。つまり、1つのサンプルとして「韓国」の事情がとりあげられていたといえる。

さらに注目されるのは、宗教と家族成員との関係性である。ジェンダーという視点から儒教を扱った片山隆裕 [1985] をはじめ、1980年代後半から徐洗善 [1988] がキリスト教と女性、丹羽泉 [1989]、平松久枝 [1990] が巫俗と女性の関係に着目した論考をだす。近年盛んな生殖の問題も韓国社会に根強い男児選好が影響していると考えれば、坂元一光 [1989] などの研究はその先駆けであった。

1990年代から多くみられるのは家族法と関連した研究成果である。文献リストではとくに家族関係について描かれたものにかぎるように心がけたためにすべてを掲載したわけではないが、1990年 1年、韓国で公布された改正家族法はこれまでと異なり、戸主相続制の否認と夫婦平等を念頭においた大変革であったとされる。この改正を契機に多くの研究成果がこの時期にだされたのである。

1990年代前半頃から日本における韓国家族研究の成果は大幅に増加し、1990年代後半からは相当数の成果が毎年だされるようになった。1970年代頃から続く親族・宗族研究も続くなか、テーマが多様になり、細分化するのはほかの研究と同じである。そのなかでも韓国社会は日本社会と同様に少子化・高齢化問題を抱える。そこで、老人問題や育児といった福祉的な観点からのアプローチ、とくに近年の少年非行問題から家庭内におけるしつけの問題が考えられたりもする。研究書ではないが、男性の育児参加をわかりやすく紹介した『韓国版男も子育てパンチョギの育児日記』 [崔正鉉 1999] が日本で刊行されたのは興味深い。

現代は韓国においても家族概念が揺れてきている。そのなかで養子 [金演 1998]・婚外子 [金容旭 1998] といった問題も扱われるようになった。そのほか、男児選好に端を発する生殖研究も現代生殖技術との関係で論じられるようになったことが注目される [岡田 2002; 瀧上 2003, 2004]。

4. 韓国における家族のゆくえ

以上の研究動向をふまえ、韓国の家族に対する日本からの視点は今後いかなる点に着目していくのであろうか。今年度以降の韓国社会の動向から展望していく。

韓国では、民法改正案が2005年 3月 2日の国会本会議で確定され、2008年 1月から施行されることになった。それにより、戸主制に加えて、同姓同本禁婚制が廃止されることになり、また女性に対する再婚禁止期間規定が削除された。つまり、現在の韓国では子は父

親の戸籍に入るが、戸籍の代わりに個々人が 1人 1籍の新しい身分登録制が採用されることになったのである。今回の改正にともなって母親の戸籍に入り、母親の姓を名のすることも可能となった。また、再婚した家庭の子はこれまで再婚前の父親の姓にしたがっていたのを、現在の父親か母親の姓に変更できるようになった。さらに、今回の改正でこれまで同姓で、その氏族の発祥地が同一である男女の結婚である同姓同本婚を禁じた条項も、近親婚の条項が導入されることで廃止されることになった。以上のことに付随して、韓国も日本同様に離婚後の女性については再婚後にできた子の父親の特定を理由に 6か月間再婚を禁止していたが、それが廃止された。つまり、これまでは家族法上、子の父親が誰かが問題にされていたが、その必要性がなくなったのである。

これには、近年になって家族関係を揺るがしている外国人労働者流入にともなう国際結婚の増加が背景として横たわっていたが、今回の改正は、単に彼ら外国人の人権保護以上の意味合いをもっている。家族制度をめぐって、儒教の影響が残る男性を中心とした封建的な法体系が大きく崩されたためである。これまで韓国の家族の根幹をなしていた戸主性が廃止されたことは、まさに男性優位であった進められてきた社会から男女平等社会への展開を意味する。

近年では、祖先祭祀を行う節日にも、個人の娯楽にあてたり、また親族よりも狭い範囲での家族だけが集まるなど、個人主義的な傾向をみせてきた。儒教の本質である祖先祭祀を中心に親族や家族をまとめてきたあり方が法律改正にともなう雰囲気急速に広まり、集団よりも個人を優先させていく社会的風潮が加速化されることが予測される。

当然、それにともなって、家族のあり方が今後大きく揺らいでいくことは間違いない。社会の動きが法に反映し、またそのような経過によってできあがった法が社会に反映していく。つまり、この法改正によってより国際結婚が行いやすくなったし、人々の認識が変わったといえる。儒教的な祖先祭祀がストレスになっていた韓国人女性にとって、とくに外国人男性と結婚はこれらのストレスからの解放を意味する。また、韓国社会全体がこのストレスの回避に関心を払わざるを得なくなるであろう。今後、国際結婚した家族の研究が日本との対比で進められていくものと思われる。

外国人労働者問題が深刻化や国際結婚の増加にともない、まだ現在ではあまりみられないが、海外養子や婚外子の問題がより注目され、応用されて検討されていくであろう。これまではともに家族研究の中心として扱われることがなかったテーマであるが、外部との関係に目を向けたとき、一時期において海外に大量に引き取られた海外養子の問題は避けて通れない。また、これまでは戸籍にあがりにくかった婚外子の問題にも同様に焦点が向けられるものと思われる。これらについては、日本との比較という視点より、韓国独自の社会問題として研究が進むものと考えられる。

福祉は韓国で最近とみに注目されている分野である。1つは家族関係とも密接にかかわる高齢化問題であり、1つは身障者の問題である。養護施設が造成されるが、その普及にともない、これまで伝統的に長子が老人を扶養してきた家族のあり方が再検討される可能

性も高い。また、身障者に対しては各家族の問題として抱え込む問題であったが、そこに地域が入り込むことで、家族が地域を含めたより開かれたかたちで検討される時期にさしかかっているといえる。

現代技術と家族の関係性も今後の研究傾向の 1つといえるかもしれない。それがまさに生殖技術をはじめとする医療技術である。韓国では過去にクローン研究で物議を醸したこともあるが、さらに生殖以外にも老いに対しても現代技術の問題がかかわってくる。もちろん、福祉的な観点からも高齢化社会を迎えた韓国は日本にとっても注目される。しかし、高度な現代技術は人々が生きていくのに何をもちたらすのかといった根本的な問いかけを行うには、人々が生きていく単位としての家族に着目をせざるを得ない。現代の発達した医療技術をもつ国家同士として、これらの問題に対して共同研究などが進められていく可能性がある。

最後に、同性愛者の問題を指摘しておきたい。今年 4月にソウルでレズビアン相談所が開所するなど、韓国では同性愛者に対する関心が急速に高まってきている。法整備などはまだ先であろうが、今後は同性愛者同士のユニット、そこにかかわる養子の問題などが家族を問なおす新たな問題として注目されてこよう。

<<参考文献>>

井上和枝

1985「朝鮮家族史研究の現状と課題」『歴史評論』424, pp. 43-53.

伊藤亘人

1996『韓国』河出書房新社.

金疇洙

2004「韓国における家族の現状と家族法の動向」山中美由紀編『変貌するアジアの家族：比較・文化・ジェンダー』昭和堂, pp. 141-166.

金貞任／杉岡直人

2001「韓国の家族研究の動向：国際会議“Families in Aging Society”を中心に」『家族社会学研究』13(1), pp. 107-112.

鄭鍾休

1991『改正韓国家族法の解説』信山社.

統計庁

2003『韓国の社会指標』韓国統計庁.

洪上旭

2004「価値意識の変化と韓国女性の暮らしと地位」山中美由紀編『変貌するアジアの家族：比較・文化・ジェンダー』昭和堂, pp. 167-200.

第54回日本統計年鑑（平成17年）

<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index.htm>（2005年4月16日参照）

日本の結婚件数・離婚件数「統計局データ」

<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/pdf/y0221022.pdf> (2005年4月16日参照)

日本の出生率「統計局データ」

<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/pdf/y0224025.pdf> (2005年4月16日参照)

日本の初婚年齢「平成15年人口動態統計月報年計（概数）の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai03/marr.html>
(2005年 4月16日参照)

韓国の家族に関する文献リスト

1954

「家」制度研究会編『中國・朝鮮の「家」について』「家」制度研究会

1973

中根千枝編『韓国農村の家族と祭儀』東京大学出版会

1978

李光奎（服部民夫訳）『韓国家族の構造分析』国書刊行会

1981

金宅圭（伊藤亜人・嶋陸典彦訳）『韓国同族村落の研究：両班の文化と生活』学生社

1982

江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房

1983

竹田且『木の雁：韓国の人と家』サイエンス社

尹学準『オンドル夜話：現代両班考』中央公論社

1988

李効再（金洪仙・左和子訳）『分断社会と女性・家族』社会評論社

1990

江守五夫『家族の歴史民族学：東アジアと日本』弘文堂

杉山晃一・櫻井哲男編『韓国社会の文化人類学』弘文堂

1991

鄭鍾休『改正韓国家族法の解説』信山社

1992

アジア女性交流・研究フォーラム・韓国女性開発院編『日本と韓国の家族意識の比較研究
：福岡・ソウル調査を中心に共同研究』アジア女性交流・研究フォーラム

崔吉城（重松真由美訳）『韓国の祖先崇拜』御茶の水書房

本渡諒一ほか『韓国家族法の実務：婚姻・離婚・親子・相続Q&A100』日本加除出版

1993

R. ジャネリ・任敦姫（樋口淳ほか訳）『祖先祭祀と韓国社会』第一書房

1996

国際長寿センター『東アジアの少子化と高齢化対策に関する日本・韓国および中国3カ国比較研究』国際長寿センター

瀬地山角『東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学』勁草書房

崔弘基『韓国戸籍制度史の研究』第一書房

1997

李星鎬(本橋良子訳)『いま、あなたの子どもが揺れている:現代韓国子ども事情』東京書籍

1999

崔正鉉(加藤美蘭訳, 石坂浩一監修)『韓国版男も子育てパンチョギの育児日記』社会評論社
服部民夫『変容する世界の家族—韓国』ナカニシヤ出版

2000

尹学準『韓国両班騒動記：“血統主義”が巻き起こす悲喜劇』亜紀書房

吉原和男・鈴木正崇・末成道男編『<血縁>の再構築』風響社

2001

岡田浩樹『両班：変容する韓国社会の文化人類学的研究』風響社

丸山孝一『韓国国際交流財団共同研究プロジェクト研究成果報告 韓国民家の構造と家族の動態に関する研究』

2002

趙惠貞著(春木育美訳)『韓国社会とジェンダー』法政大学出版局

2003

金貞任『高齢社会と家族介護の変容：韓国・日本の比較研究』法政大学出版局

金香男『韓国における高齢者扶養の変化と家族関係に関する研究』同志社大学博士論文

島本みどりほか編『韓国の働く女性たち』東方出版

2004

山中美由紀編『変貌するアジアの家族：比較・文化・ジェンダー』昭和堂

佐藤康行・清水浩昭・木佐木哲朗編『変貌する東アジアの家族』早稲田大学出版部

韓国の家族に関する報告書および論文文献リスト

1949

善生永助「朝鮮の大家族制と同族部落」現代中国学会『中国研究』6, pp. 41-60

1951

秋葉隆「祈子の習俗について：朝鮮社会の家庭主義的性格」『朝鮮学報』1, pp. 183-192

1963

崔在錫「韓国農村に於ける親族の範囲」『民族学研究』27(3), pp. 541-551

1971

李万甲「戦後における韓国家族の変化」『社会学評論』22(1), pp. 82-90

1972

三浦正「キリスト教と韓国家族制度の精神的背景：韓国近代化研究ノート」『海外事情
研究所報告』8, pp. 11-19

1973

青柳清孝「全羅南道光山郡大村面A部落における世帯構成と住居の構成」『アジア文化
研究』7, pp. 51-60

李光奎「韓国家族の構造」中根千枝編『韓国農村の家族と祭儀』東京大学出版会, pp. 13-40

伊藤亜人「韓国農村社会の一面：全羅南道珍島にて」中根千枝編『韓国農村の家族と祭儀』
東京大学出版会, pp. 147-159

佐藤信行「済州島の家族：O村の事例から」中根千枝編『韓国農村の家族と祭儀』東京大学
出版会, pp. 109-145

末成道男・李光奎「慶尚北道百忍・中浦両部落調査予報 とくに家族・親族について」
中根千枝編『韓国農村の家族と祭儀』東京大学出版会, pp. 41-78

宗秋月「朝鮮女の三位一体：暮らしの中の宗教性」『思想の科学』通号20号, 思想の科学社,
pp. 10-15

中根千枝「沖縄・本土・中国・朝鮮の同族・門中の比較」日本民族学会編『沖縄の民族学的
研究』民族学振興会, pp. 273-302

1974

金宅圭「東アジアの同族共同体：韓国」青山道夫ほか編『講座家族6 家族・親族・同族』
弘文堂, pp. 56-74

崔龍基「韓国：とくに儒教的家族思想の変遷とその社会的意義」青山道夫ほか編
『講座家族8 家族観の系譜』弘文堂, pp. 332-353

1975

服部民夫「日本・朝鮮における同族概念の比較試論：養子と相続を中心として」『アジア
経済』16(2), pp. 60-72

1976

江嶋修作「韓国農村に於ける親族構造分析の一問題点：“同族”概念使用の問題を
めぐって」『広島修大論集 人文編』16(2), pp. 87-112

佐藤信行「済州島の<サドン>」南島史学会編『南島：その歴史と文化』国書刊行会,
pp. 219-231

嶋陸奥彦「堂内 (Chib-an) の分析 韓国全羅南道における事例の検討」『民族学研究』
41(1), pp. 75-90

服部民夫「韓国と日本の家族についての一視角」『アジア経済』17(3)

1977

伊藤亜人「契システムにみられるCh' inhan-saiの分析：韓国全羅南道珍島における村落構造
の一考察」『民族学研究』41(4), pp. 281-299

稲葉継雄「韓国の学校・家庭・社会」『自由』19(12), 自由社, pp. 87-103

1978

八木佐市「韓国農村の家族主義的性格：内谷里の実態を中心に」『広島法学』2(2・3), pp. 301-326

山中美由紀「韓国都市家族の老親子関係」『ソシオロジ』23(2), pp. 75-87

1980

嶋陸奥彦「韓国の‘家’の分析 養子と分家をめぐって」『広島大学総合科学部アジア研究』2号, pp. 39-52

竹田且「韓国家族における“隠居”について」国分直一博士古稀記念論集編纂委員会編『日本民族文化とその周辺：国分直一博士古稀記念論集』新日本教育図書

服部民夫「朝鮮後期における名門両班の結婚関係：サブ・リニージ連合の形成とその意味」『アジア経済』21(6), pp. 22-56

1981

青木清「韓国法における伝統的家族制度について：宗法制度との関連を中心に」『名古屋大学法政論集』87, pp. 273-321

1982

李光奎「韓国の老人問題」『民族学研究』46(4), pp. 410-421

金大煥「韓国の近代化過程における同族社会(両班)の変遷」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 233-266

金宅圭「韓・日両国のいわゆる‘同族’村落に関する比較試攷」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 267-356

重松真由美「韓国の女」綾部恒雄編『女の文化人類学』弘文堂, pp. 197-223

崔龍基「族譜からみた仁同張氏の形成過程」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 75-104

崔龍基・江守五夫「両班支配とその変遷」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 105-148

崔龍基・江守五夫「同族と家族の構造」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 149-232

朴秉濠「韓国村落社会における同族結合の類型」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 39-73

宮良高弘「韓・琉門中制度の比較」江守五夫・崔龍基編『韓国両班同族制の研究』第一書房, pp. 357-417

1983

伊藤亜人「甕と主婦：韓国農村の女性の‘領分’」『季刊民族学』7(2), pp. 26-35

坂元一光「通過儀礼よりみた韓国伝統社会の青・少年期の特質」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』34, pp. 49-66

真鍋祐子「韓国社会における内と外の展開」江淵一公・伊藤亓人編『儀礼と象徴』九州大学出版会, pp. 443-466

1984

朴恵信「韓国と日本における女子生徒・学生の価値意識に関する比較研究：家庭・女性観を中心に」『日本比較教育学会紀要』10, pp. 81-88

1985

井上和枝「朝鮮家族史研究の現状と課題」『歴史評論』424, pp. 43-53

片山隆裕「ジェンダーの相対性：韓国儒教をめぐる文化人類学的考察」『九州大学教育学部比較教育文化研究施設紀要』36号, pp. 21-40

坂元一光「韓国の子どもと祖先」岩田慶治編『子ども文化の原像：文化人類学的視点から』日本放送出版協会

本村汎・洪上旭「韓国にみる家族変動：農村家族と都市家族の比較を通じて」『大阪市立大学生生活科学部紀要』33, pp. 245-258

山中美由紀「韓国農村女性の配偶者選択と結婚観：慶尚北道安東郡の調査結果から(資料)」『ソシオロジ』30(2), pp. 131-150

1986

李光奎(野々山久也訳)「韓国における農村家族の変貌と様相」原ひろ子編『家族の文化誌』弘文堂, pp. 208-238

1987

伊藤亓人「韓国の親族組織における“集団”と“非集団”」伊藤亓人・関本照夫・船曳健夫編『現代の社会人類学1 親族と社会の構造』東京大学出版会, pp. 163-186

金竜沢「韓国の社会変化と老人の役割：経済開発政策樹立前の状況」『アジア・アフリカ文化研究所研究年報』22, pp. 95-102

末成道男「韓国社会の<両班>化」伊藤亓人・関本照夫・船曳健夫編『現代の社会人類学1 親族と社会の構造』東京大学出版会, pp. 45-79

崔在錫(津波高志訳)「韓国の親族集団と琉球の親族集団：類似点と伝播を中心に」琉球大学史学会『琉球史学』15, pp. 49-66

本村汎・洪上旭「日本と韓国における配偶者選択要因の研究：夫婦平等志向性の確立にむけて」『大阪市立大学生生活科学部紀要』35, pp. 443-459

兪勲「韓国の家族計画」『周産期医学』17(2), 東京医学社, pp. 229-233

1988

朝倉敏夫「韓国祖先祭祀の変化：都市アパート団地居住者を中心に」『国立民族学博物館研究報告』13(4), pp. 741-786

徐洸善「現代韓国の女性とキリスト教(講演録)」『宮城学院女子大学基督教文化研究所研究年報』22, pp. 215-227

曹恩(小林孝行訳)「産業化と新家長制 女性の適応と葛藤」韓国社会学会編

『現代韓国社会学』新泉社, pp. 182-200

1989

酒井ノブ子「現代の韓国主婦の家庭管理能力：京畿地方の場合」『日本家政学会誌』40(3), pp. 181-187

坂元一光「誕生のセクシズム：男児を好む文化と女兒を好む文化」『教育と医学』37(6), pp. 518-524

高橋統一ほか「韓国の地域社会と老人の地位：伝統と近代化をめぐって」『アジア・アフリカ文化研究所研究年報』24, pp. 166-123

谷俊治「エゴグラムに示された韓国と日本の聴覚障害児の家族関係について」『東京学芸大学紀要 第1部門教育科学』40, pp. 109-119

津波高志「相続と継承からみた済州島の家族」『地域文化研究』4, pp. 99-104

丹羽泉「韓国巫俗と女性」『宗教研究』63(1), pp. 139-162

ピルファ・チャン「韓国における女性学の発達と韓国社会への影響」『性役割を変える地球的視点から：平成元年度女性学国際セミナー』国立婦人教育会館

文玉杓（本田洋訳）「農村の経済発展と女性の地位：日本と韓国の比較」『民族学研究』54(3), pp. 239-256

1990

片山隆裕「韓国における女性と儒教」杉山晃一・櫻井哲男編『韓国社会の文化人類学』弘文堂, pp. 159-172

末成道男「韓国と中国漢族の大小リネージの比較」杉山晃一・櫻井哲男編『韓国社会の文化人類学』弘文堂, pp. 103-122

瀬地山角「韓国・台湾の主婦と女子労働：女性の社会進出の行方を占う」『アジア経済』31(12), pp. 22-40

平林久枝「韓国・朝鮮女性の日常生活と宗教意識」『フェミニズムから見た東アジアの経済発展と宗教（シンポジウム報告書）』フェミニズム・宗教・平和の会

本村汎・金恩美「韓国における‘既婚女性の家庭役割規範’および‘家族主義’に対する既婚男女の態度：主婦の家庭外就労の阻害要因の発見にむけて」『大阪市立大学生活科学部紀要』38, pp. 393-407

依田千百子「韓国の食文化と女性」杉山晃一・櫻井哲男編『韓国社会の文化人類学』弘文堂, pp. 173-193

1991

伊藤亜人「韓国における親族体系と歴史認識」『思想』通号808, pp. 139-151

加藤義明「現代青少年の家庭・学校環境の認識と価値観：日本・韓国・米国・中国の比較研究」『東京都立大学人文学報』223, pp. 31-59

鄭鎮星「韓国と日本の家族構造の比較研究：日本の核家族化鈍化と女性労働の関係を中心に」『社会科学研究』42(4), pp. 121-144

1992

- 青木清「韓国家族法と日本の家族法：戸主制度の系譜をめぐって」『ジュリスト』1007,
pp. 45-49
- 坂元一光「韓国産育民俗の一側面：男児選好の背景と変容を中心に」『比較民俗学研究』5,
pp. 148-156
- 嶋陸奥彦「大丘戸籍にみる朝鮮後期の家族構造の変化：父母と同居する子を中心に」
『朝鮮学報』144号, pp. 51-88
- 金恩美「良妻賢母イデオロギー強い韓国」『季刊女子教育もんだい』52, pp. 106-109
- 金允求「韓国における家族の変化と家族法」『茨城大学政経学会雑誌』60, pp. 45-49
- 服部民夫「東アジアの財閥はいま(1)韓国：高度成長を実現した家族支配が限界に」
『世界週報』73(31), pp. 51-58
- 秀村研二「教会と女性：韓国キリスト教の一断面」『明星大学研究紀要 人文』28, pp. 13-20
- ペ羅美ほか「都市集合住宅地における高齢者コミュニティ空間に関する研究：韓国，老人亭
の利用に対する考察」奈良女子大学家政学会『家政学研究』38(2), pp. 135-144

1993

- 安秉坤「韓国における伝統的家族研究の現状」『社会学評論』44(1), pp. 46-53
- 小川隆章「韓国人の結婚生活と子ども観」『青少年問題』40(11), pp. 20-25
- 金美蘭「韓国における女子高等教育の拡大と文化：女性にとっての学歴と‘賢母良妻」
『東京大学教育学部紀要』33, pp. 55-66
- 倉持和雄「80年代後半韓国における農村人口の流出と農村家族構造の変化に関する実証的
考察：忠南道四箇村落の事例研究の分析」『アジア研究』39(3), pp. 1-34
- 田端かや「韓国の厳しい“婚家暮らし”」『季刊女子教育もんだい』55, pp. 105-107
- 中野優子「韓国仏教見聞記：韓国と日本における女性と仏教」『曹洞宗宗学研究所紀要』6,
pp. 89-125
- 雪江美久・白雲鶴「“家族と地域社会の教育力”に関する実証的研究(1)日本(仙台)と韓国
の“基礎調査”の結果を通じて」『宮城教育大学紀要第2分冊 自然科学・教育科学』
28, pp. 161-177

1994

- 朝倉敏夫「韓国の家族と子育て」『教育と医学』42(7), pp. 635-641
- 竹田且「韓国家族における嫁と姑」田中真砂子・大口勇次郎・奥山恭子編『縁組と女性』
早稲田大学出版部, pp. 54-85
- 崔弘基「韓国の伝統的親族制度と現代家族」『アジア・アフリカ文化研究所研究年報』29,
pp. 19-28
- 兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所編『中国・韓国・タイと日本の夫婦・家族関係に
関する比較研究報告書』兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所
- 本田洋「韓国家族論の現在：全羅南道南原郡一山間農村」『朝鮮学報』152号, pp. 109-166

雪江美久・白雲鶴「“家族と地域社会の教育力”に関する実証的研究(2-1)日本(仙台)と韓国の“基礎調査”の結果を通じて」『宮城教育大学紀要第2分冊 自然科学・教育科学』29, pp. 225-241

1995

安秉坤「韓国伝統家族における分居的直系家族の類型化の試み：日本の家(イエ)における‘潜在的直系家族’との比較を中心に」『関西学院大学社会学部紀要』72, pp. 153-163

李誠国「韓国の人口高齢化と高齢者の生活事情」『Aging』12(4), pp. 46-50

伊藤亜人「韓国における家族とチプ」韓国文化院監修『月刊韓国文化』no. 188, pp. 19-24

任喜敬・今井範子「韓国都市集合住宅における諸家事行為と家事空間の検討」奈良女子大学家政学会編『家政学研究』42(1), pp. 20-31

栗原葉子「韓国のママ・ボーイとオモニ：母の言うこと聞くのは孝行」『季刊女子教育もんだい』62, pp. 99-103

篠崎正美「現代韓国農村家族の形態変動とアノミー：全羅北道金堤郡万頃面トジャン里の調査から」『社会関係研究』1(2), pp. 47-69

嶋陸奥彦「族譜の世界」韓国文化院監修『月刊韓国文化』no. 188, pp. 2-7

韓奎良「韓国の家族：祖先祭祀儀礼の変化を中心として」教育と医学の会編『教育と医学』慶應義塾大学出版会、43(1), pp. 26-32

東アジア地域高齢化問題研究委員会編集「平成6年度日本船舶振興会補助事業研究報告書 中国・韓国・台湾の人口高齢化と高齢者の生活事情：東アジア地域/高齢化問題研究」エイジング総合研究センター

ヤンビ「アジアに架ける橋：韓国の精神発達遅滞児をもつ家族の休息ケア」『月刊福祉』78(2), pp. 68-71

雪江美久・白雲鶴「“家族と地域社会の教育力”に関する実証的研究(2-2)日本(仙台)と韓国の“基礎調査”の結果を通じて」『宮城教育大学紀要第2分冊 自然科学・教育科学』30, pp. 159-172

尹学準「韓国のチバン意識とハンヨル」韓国文化院監修『月刊韓国文化』no. 188, pp. 8-11

吉田光男「戸籍と朝鮮時代の姓氏・本貫・家族」韓国文化院監修『月刊韓国文化』no. 188, pp. 12-18

1996

安玉姫・朴仁全「都市主婦の家事労働満足度と家庭生活満足度」『家政学研究』42(2), pp. 101-105

KIM, Chi-sok「恋愛・家族・女性などを描いたメロドラマは社会環境をどう反映しているか：韓国映画におけるメロドラマの過去と現在」『Cinema 101』3, pp. 32-39

桐原宏行・高見令英・徳田克己ほか「韓国における乳幼児を持つ母親の育児に関する研究(1) 育児負担感について」『桐花教育研究所研究紀要』9, pp. 23-27

桐原宏行・高見令英・徳田克己ほか韓国における乳幼児を持つ母親の育児に関する研究(2)

- 肯定度について』『桐花教育研究所研究紀要』9, pp. 29-31
- 柴山真琴「中国人・韓国人留学生家族と保育園：育児行動は文化的にどのように構成されているか」『東京大学大学院教育学研究科紀要』36, pp. 129-138
- 竹田且「法と民俗の対立：韓国の家庭儀礼に関する法令をめぐって」『日本民俗学』207, pp. 93-135
- 曹秋竜「韓国における老人福祉と地域社会に関する研究」日本生命済生会福祉事業部『地域福祉研究』24, pp. 51-60
- 豊福陽一「韓国の村落と家族コメント」仏教大学総合研究所編『東アジアの村落と家族』pp. 25-26, 66-68
- 比嘉政夫「環東シナ海地域の社会組織の比較民俗論：韓国と沖縄の「門中」の構造と生成をめぐって」『日中文化研究』9, 勉誠出版, pp. 95-106
- 松本誠一「韓国の村落と家族」仏教大学総合研究所編『東アジアの村落と家族』pp. 22-24, 27, 61-65

1997

- 李光奎・末成道男「慶尚北道百忍・中浦両部落調査予報：とくに家族・親族について」『東洋文化』53, pp. 41-78
- 李起男・李誠国「韓国農村地域老人の日常生活動作能力の実態とその関連要因」『民族衛生』63(5), pp. 346-356
- 李東植「伝統的集落の基本構造とその共同体(門中)意識に関する研究(韓国珍島上万村の事例)」『日本建築学会計画系論文集』502, pp. 125-131
- 金香男「若年層の家族意識の変化 韓国と日本の大学生に対するアンケート調査を中心として」『同志社社会学研究』1, pp. 95-110
- 筒井真樹子・山藤泰「CEL対談 アジアの中の韓国と日本(特集 アジアの家族と教育)」大阪ガスエネルギー文化研究所『CEL』41, pp. 47-53
- 片智ゲン「韓国における最近の離婚動向調査研究(上)」『比較法学』30(2), pp. 31-65
- 夫馬佳代子「日本と韓国における中学生の家事労働時間と家庭生活観との関係」『岐阜大学教育学部研究報告 自然科学』21(2), pp. 133-142
- 三満照敏「海外法律情報 韓国 国籍法の改正：父系血統主義から両系血統主義へ」『ジュリスト』1122号、有斐閣, p. 71
- 安田ひろみ「韓国の女性：儒教的規範の裏側、ムダンの世界から」綾部恒雄編『女の民族誌1 アジア編』弘文堂, pp. 39-64

1998

- 朝倉敏夫「変貌し始める島の農村八〇年代、南西部島嶼部農村の家族生活とその変化」朝倉敏夫・嶋陸典彦編『変貌する韓国社会』第一書房, pp. 147-183
- 李庚熙「韓国家族法上の女性の地位の変遷」沖縄国際大学国際セミナー実行委員会『家族の変容：ジェンダーの視点から』

- 李徳奉「韓国の家庭におけるしつけ」『児童心理』52(11), pp. 1068-1071
- 井上和枝「韓国の家族制度の変化—老後の問題を中心に」武蔵野女子大学人間学会
『人間研究』3, pp. 45-51
- 林在圭「韓国における‘門中’の構造と機能：忠清南道宜寧南氏忠壯公派門中を中心に」
『村落社会研究』5(1), pp. 45-56
- 小澤康則「韓国の俗信語における性：女性に対する禁忌語を中心に」清水浩昭・芳賀正明
・松本誠一編『性と年齢の人類学』岩田書院, pp. 195-213
- 加藤光一「韓国の小農・家族経営の現代的位相」『経済』35, 新日本出版社, pp. 92-111
- 木下英司, 黄元淳「台湾・韓国における家族と高齢者をめぐる一試論」早稲田大学人間総合
研究センター（流動化社会と生活の質プロジェクト）
- 金美榮「現代韓国社会の‘男児選好思想’についての一考察」清水浩昭・芳賀正明
・松本誠一編『性と年齢の人類学』岩田書院, pp. 159-176
- 金演「韓国養子制度の構造」中川淳先生古稀祝賀論集刊行会編『新世紀へ向かう家族法：
中川淳先生古稀祝賀論集』日本加除出版
- 金容旭「韓国の婚外子と親権・後見・扶養の関係」中川淳先生古稀祝賀論集刊行会編
『新世紀へ向かう家族法：中川淳先生古稀祝賀論集』日本加除出版
- 嶋陸奥彦「韓国の家族の長期的変容」奥山恭子・田中真砂子・義江明子編『扶養と相続』
早稲田大学出版部, pp. 151-157
- 田中敏明「平成5年-平成8年文部省科学研究費補助金大学間協力研究研究成果報告書（課題
番号05045006） 少子化時代における子どもの生活、文化、環境に関する日中間比較
分析的研究(韓国、台湾を含む)」
- 鄭鳳輝「儒教文化と家族主義：韓国の伝統社会を中心に」『海外事情研究』26(1), pp. 1-21
- 外山知徳「住まい方調査から見た韓国の家族空間」『静岡大学教育学部研究報告 人文・
社会科学篇』49, pp. 139-158
- 中尾美知子「族譜の世界：韓国北朝鮮の家族」『N I R A政策研究』11(8), pp. 20-24
- 名古屋市市民局市民文化部女性企画室『女性問題・海外レポート：韓国女性における過去と
現在』名古屋市市民局市民文化部女性企画室
- 朴永愛「社会変化による韓国家族と女性の変化」沖縄国際大学国際セミナー実行委員会
『家族の変容：ジェンダーの視点から』
- 樋口恵子・呉善花「対談 これからの家族像：家族の“血”を守る韓国」『Aging』15(4),
pp. 30-35
- 片智ゲン「韓国における最近の離婚動向調査研究(下)」『比較法学』32(1), pp. 1-57
- 本田洋「韓国の社会変動と家族」黒柳晴夫・山本正和・若尾祐司編『父親と家族』
早稲田大学出版部, pp. 196-226

1999

- 安秉坤「日韓両国の社会変動とかかわる家族制度研究」日韓文化交流基金編『訪日学術

研究者論文集 アカデミック』5, pp. 1163-1201

李銀沢「現代小説に現れた韓国の今(16)改めて甦る家族の絆」『アプロ21』24, pp. 54-57

李ケイ媛「研究助成報告要旨 性別役割分業の実情：韓国の一都市の夫婦を対象とした調査から」『家計経済研究』43, pp. 63-68

李善愛「生殖・出産・育児のモノグラフ：異文化の中での赤ちゃんの誕生(5)韓国のお産文化の現在」『ペリネイタル・ケア』18(10), メディカ出版, pp. 940-945

李善愛「韓国のお産文化」『宮崎公立大学人文学部紀要』7(1), pp. 175-196

井村修・李海善・棚原健次ほか「家族アセスメントインベントリーによる家族機能の国際比較：日本・韓国・ブラジルについて」『沖縄心理学研究』22, pp. 6-9

太田達也「韓国における“家庭暴力犯罪処罰特例法”の概要：家庭内暴力事犯における保護観察の役割にも言及して」『更生保護と犯罪予防』34(1), pp. 8-40

金銀淑「韓国における子供を抱えた有業既婚女性の日常生活の特性」『金沢大学文学部地理学報告』9, pp. 33-51

金貞任「在宅要介護高齢者の主介護者のストレスに関する研究：ソウル市における事例調査から」『家族関係学』18, pp. 39-48

金恵善(吉川美華訳)「近年の韓国における離婚の動向」『ジェンダー研究』19, pp. 63-74

坂元一光「アジアにおける子どものジェンダー：韓国、タイ、日本の性別選好とその背景」片山隆裕編『アジアの文化人類学』ナカニシヤ出版, pp. 45-56

嶋陸奥彦「1997-1999文部省科学研究費補助金研究成果報告書(基盤研究C09610309) 韓国
の伝統社会再考：植民地時代農村の民族誌的再考察」東北大学

嶋陸奥彦「韓国人の名前：併存する複数の名前と呼び名」上野和男・森謙二編『名前と社会』早稲田大学出版部, pp. 230-251

杉山道雄「日本における農村女性労働の特徴：アメリカ、韓国、スリランカとの比較」『農政調査時報』519, pp. 14-29

谷田沢典子「韓国女性施策1997, 1998年」『桜花学園大学研究紀要』2, pp. 103-115

崔吉城「韓国人の名前に関する人類学的研究」上野和男・森謙二編『名前と社会』早稲田大学出版部, pp. 145-175

西村祐子「産業化社会と主婦：韓国・インド・日本の比較考察の試み」『駒沢大学外国語部論集』49, pp. 131-165

韓奎良「女性と結婚生活：韓国」片山隆裕編『アジアの文化人類学』ナカニシヤ出版, pp. 29-43

山田正浩・沖田佳代子・山本かほり「韓国における地域・家族の変化と老親扶養意識」『社会福祉研究』1(1), pp. 59-91

2000

伊藤亜人「コメント 父系血縁社会の現代的脈絡—韓国社会をめぐって」

吉原和男・鈴木正崇・末成道男編『<血縁>の再構築』風響社, pp. 277-282

- 井上和枝「朝鮮女性史における“新女性”研究の新たな動向」『鹿児島国際大学国際文化学部論集』1(2), pp. 97-103
- 桶谷弘美「一韓国女性の教育にかける人生：その実践行動を探る」『大阪樟蔭女子大学論集』37, pp. 135-146
- 加藤光一「1999-2000科学研究費補助金研究成果報告書(基盤研究B10041080) 韓国・台湾における家族経営と農村社会の変貌過程に関する研究」
- 金香男「韓国における老人扶養の変化と老人扶養政策」『同志社社会学研究』4, pp. 41-51
- 金美淑「韓国の家族扶養の動向と高齢者政策に関する研究：日本との比較を通して」『社会福祉学』40(2), pp. 152-167
- 熊田伸子「各国における高齢者福祉と家族の現状 (1) 東北アジア 主として韓国・中国について」『郡山女子大学紀要』36, pp. 73-86
- 佐々木典子「現代家族の変動」小林孝行編『変貌する現代韓国社会』世界思想社, pp. 25-43
- 篠崎正美・金周淑「現代韓国農村家族の形態変動とアノミー：全羅北道堤郡万頃面トジャン里の調査から」篠崎正美監訳『アジアの経済発展と家族及びジェンダー』アジア女性交流研究フォーラム
- 嶋陸奥彦「歴史人類学からみた韓国の親族結合」吉原和男・鈴木正崇・末成道男編『〈血縁〉の再構築』風響社, pp. 167-184
- 清水浩昭「高齢者家族の構成と構造：日本・韓国・アメリカ・ドイツとの比較研究」『社会学論叢』138, pp. 1-16
- 孫知延「民族と女性、ゆらぐ<新しい女>：植民地朝鮮における雑誌“新女子”を中心に」『日本文学』49(5), pp. 57-68
- 高見令英・桐原宏行・趙洪仲ほか「韓国における親の夫婦げんかの実態とけんかが子どもに与える影響」『実践人間学』4, pp. 13-18
- 崔仁鉉「国際統計展望 韓国の人口変動と家族形成」『統計』51(11), pp. 50-57
- 崔達坤「基調報告の概要韓国法上の離婚：その原因と財産関係」『戸籍時報』521, pp. 11-13
- 趙美景「韓国・安東におけるしつけの伝統の持続と変容：ある一家のインタビュー調査から」お茶の水社会学研究会『Sociology today』11, pp. 36-52
- 勅使千鶴「新千年に向けて、韓国の共同育児運動の取り組み：保育運動の源流に学ぶ」保育研究所『保育情報』276, pp. 8-13
- 津谷典子「ジェンダーからみた就業と家事：日本と韓国とアメリカの比較」国立社会保障・人口問題研究所編『人口問題研究』56(2), pp. 25-48
- 仲川裕里「韓国の親族制度：日本との比較を中心に」『専修大学現文研』76
- 山本かほり「儒教規範のなかの女性」小林孝行編『変貌する現代韓国社会』世界思想社, pp. 44-65

2001

- 李エイ媛「韓国の大学生の意識調査から見る性別役割分業の維持メカニズム：“経済的責任

- 者としての夫” という役割意識」『国立女性教育会館研究紀要』5, pp. 57-66
- 角田由佳・許棟翰「韓国における介護需要の実態と将来推計：日本の高齢化状況と比較しながら」『九州国際大学経営経済論集』8(1), pp. 135-154
- 河かおる「総力戦下の朝鮮女性」『歴史評論』612, pp. 2-17
- 金貞任・杉岡直人「韓国の家族研究の動向：国際会議“Families in Aging Society”を中心に」『家族社会学研究』13(1), pp. 107-112
- 金貞恵「伝統家族の変貌にみられる小説的形象と意味」日韓文化交流基金編『訪日学術研究者論文集 アカデミック』7, pp. 303-333
- 金容漢「家族法における韓国と日本」東洋大学比較法研究所『比較法』38, pp. 19-50
- 小林孝行「韓国の現代家族」『A P Cアジア太平洋研究』8, pp. 76-89
- 佐々木典子「韓国家族研究の成果と問題に関する考察」『社会学研究科年報』8, pp. 103-110
- 杉林信義「親族の範囲とその呼称について：韓国を中心とする一考察」『秋田経済法科大学法学部法律政治研究所紀要』17, pp. 19-55
- 鈴木文子「女性からみた親族：韓国漁村の人口減少化における女性のネットワーク分析を中心に」『島根大学教育学部紀要 人文・社会科学』35, pp. 21-40
- 張慶燮「急激に進んだ近代化と韓国の家族：家族観にみる偶発的多元性」『A P Cアジア太平洋研究』9, pp. 24-32
- 崔達坤「第14回アジア家族法三国会議報告 韓国法上の離婚：その原因と財産関係」『戸籍時報』523, pp. 4-24
- 日韓女性に対する暴力プロジェクト研究会編『トヨタ財団研究助成報告書 家庭内の‘女性に対する暴力’防止に関する社会システム開発のための日本・韓国共同研究』日韓女性に対する暴力プロジェクト研究会
- 朴惠蘭（李啓玉訳）「現代韓国女性の生き方」『部落解放』494, pp. 82-89
- 洪金子「非行少年家族の扶養負担：韓国の家族を中心に」『司法福祉学研究』1, pp. 88-99
- 洪賢秀「若者をとりまく家族状況：教育熱と母子関係を中心に」『月刊韓国文化』263, pp. 6-9

2002

- 李光奎「婚姻制度の変遷」『月刊韓国文化』268, pp. 6-9
- 李秀子「韓国人の結婚観」『月刊韓国文化』268, pp. 2-5
- 李東エン・金貞任「韓国の現代家族の変動」『家族社会学研究』13(2), pp. 49-59
- 井上和枝「近代朝鮮女性の自我形成のあゆみ：『女子界』・『女子時論』・『新女子』を中心に」『鹿児島国際大学国際文化学部論集』3(2), pp. 23-44
- 岡田浩樹「新生殖医療技術は儒教の下僕か？：韓国社会における受容と対応」『民族学研究』66(4), pp. 414-438
- 李京銀・高坂宏一・出嶋靖志「韓国の出生順位別出生性比の年次変化に関する研究：1970～1998年」『民族衛生』68(1), pp. 10-18

- 金ケイ一（入佐信宏訳）「植民地期朝鮮の〈新女性〉：その他者認識とアイデンティティ」
『歴史評論』624, pp. 29-41
- 金香男「韓国における高齢者扶養の問題：意識と実態の乖離をめぐって」『ソシオロジ』
46(3), pp. 145-159
- 金栄勲「現代韓国の結婚事情」『月刊韓国文化』268, pp. 15-17
- 栗栖素子「韓国の家庭内暴力犯罪の実情と対策」日本刑事政策研究会『罪と罰』39(4),
pp. 31-37
- 高坂宏一「2000-2002文部省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究C12670368）日本
・韓国・インドネシアにおける出生力低下メカニズムに関する比較人口生態学研究」
杏林大学
- 小林朋子・塘利枝子・徳田克己・崔順子・高向山「家族は子どもにとってどのような意味
を持っているか：日本、中国、台湾、韓国における‘家族’の理想と現実」『日本教
育心理学会総会発表論文集』44
- 嵯峨座晴夫「2001-2002文部省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究C13610242）
東・東南アジア地域における世代間の居住形態と高齢者の生活の質に関する比較研究：
台湾・韓国・日本・シンガポール・マレーシアの実証的データの比較研究」早稲田大学
- 嵯峨座晴夫「アジアにおける高齢者のリビング・アレンジメントに関する文献目録及び
解題：日本・韓国・マレーシア・シンガポール・台湾を中心に」早稲田大学人間総合
研究センター（流動化社会と生活の質プロジェクト）
- 嶋陸奥彦「都市化の中の親族集団：大邱市の事例検討」伊藤巫人・韓敬九編『韓日社会組織
の比較』慶應義塾大学出版会, pp. 213-226
- 丹波孝「韓国における伝統的育児様式の変容と幼児教育改革に関する研究」
日韓文化交流基金編『訪韓学術研究者論文集』3, pp. 53-102
- 崔先華「韓国における家庭内暴力の実態と対応」『立正社会福祉研究』3(2), pp. 101-105
- 鈎治雄「特別企画（国際比較）小学生の子をもつ家庭のしつけと生活意識(下)高まる進学熱
と韓国の不登校事情」『児童心理』56(14), 金子書房, pp. 1439-1444
- 野村伸一「断章：朝鮮の女性学に向けて」韓国・朝鮮文化研究会『韓国朝鮮の文化と社会』
1, pp. 181-190
- 古郡頼子「2001-2002文部省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究C13630019）女性
の就業行動：日本、韓国およびニュージーランドの比較研究」中央大学
- 牧野カツコ・姜守貞・李映「幼児をもつ母親の育児不安とその影響要因：日本と韓国の比較
から」『お茶の水女子大学人文科学紀要』55, pp. 331-347
- 柳綾美「解放前の韓国における幼稚園と家庭とのかかわり：1912年-1945年」京都女子大学
大学院文学研究科『教育学・心理学論叢』2, pp. 21-36
- 横田伸子「韓国：セマウル運動と農村女性」『アジア研ワールド・トレンド』8(9), pp. 24-27
- 義江明子「ひろば 韓国家族の伝統と変貌：比較家族史学会二〇周年記念韓国ソウル大会に

参加して」『総合女性史研究』19, pp. 85-87

延恩株「韓国および沖縄の“門中制度”とそこでの女性の役割の比較考察」『桜美林国際学
論集』7, pp. 45-60

2003

李鍾福「韓国の中小都市における老人福祉の現況と発展方向：平沢市を中心に」

ルーテル学院大学『テオロギア・ディアコニア』37, pp. 91-109

井上和枝「朝鮮家族史序説」大日方純夫編『民族・戦争と家族』吉川弘文館, pp. 56-78

井上和枝「朝鮮新女性の“近代”受容と“近代”体験：恋愛からファッションまで」

韓国・朝鮮文化研究会編『韓国朝鮮の文化と社会』2, pp. 81-112

任喜敬・今井範子「韓国における高齢者の居住形態からみた社会的ネットワークの特徴」

『都市住宅学』40, pp. 128-139

姜淳媛「韓国女性教育政策：そのシステムと執行上の問題」『解放教育』33(2), pp. 91-103

金景燦・崔惟怡「世代の和を模索する現代の家族像」『月刊韓国文化』286, pp. 12-15

金柄徹「韓国社会における家族の現在」金柄徹編『アジア研究シリーズno. 46 現代社会に
おける家族の変容：東アジアを中心に(1)』亜細亜大学アジア研究所, pp. 73-90

金富子「植民地期朝鮮における普通学校‘就学’とジェンダー規範の変容：1920年代の女子
教育論と‘賢母良妻’という規範の構築をめぐって」韓国文化研究振興財団編

『青丘学術論集』22, pp. 225-262

金花子「韓国の祖先崇拝に関する民俗学的考察：親族組織に見る民族意識を中心に」

比較民俗研究会編『比較民俗研究』19, pp. 117-134

金恵媛「少子化の進む韓国の性選択的出産の現状」『Aging』21(2), pp. 28-31

金美淑「金大中政権の家族政策の可能性と限界」『家族社会学研究』14(2), pp. 122-127

金榮基「韓国の高齢化社会における儒教文化と扶養意識の変化」『文明』3, pp. 21-31

久津美香奈子「韓国におけるフィリピン人女性：彼女たちをとりまく儒教思想との関わり
から」大阪外国語大学言語社会学会『Ex Oriente』9, pp. 181-198

小林孝行「現代韓国家族と両班」本池立ほか『比較家族研究：研究グループ論文集』

岡山大学文学部

嵯峨座晴夫ほか『アジアにおける世代間の居住形態と高齢者：台湾・韓国・日本・シンガポ
ール・マレーシアの比較研究』早稲田大学人間総合研究センター

須賀恭子「家族文化の継承としての父母像の変容：韓国の場合」『実践女子大学生活科学部
紀要』40, pp. 107-110

杉林信義「韓国における親族の範囲に関する一考察」『秋田経済法科大学法学部法律政治
研究所紀要』19, pp. 1-28

杉岡直人「解説と総括（小特集1 日本・韓国における家族政策と老親子関係）」

『家族社会学研究』14(2), pp. 99-104

武田滋樹「危機に立つ家族(15)女性が変わる伝統的結婚観：韓国」『世界思想』29(3),

pp. 34-37

田中新正・白正喜「韓国人留学生と日本人大学生の両親への心理的距離の比較研究」

『大分大学教育福祉科学部研究紀要』25(2), pp. 215-223

谷田恵美子「日本と韓国における農村社会：女性高齢者のジェンダー問題」『インター

ナショナルnursing care research』2(1), pp. 37-51

趙恩テイ「児童家庭福祉分科会 韓国における児童保護体系に関する一考察：児童保護専門

機関及び関連機関の役割を中心に(第41回社会福祉研究大会報告)」日本社会事業大学

社会福祉学会『社会事業研究』42, pp. 69-72

丁志映・小谷部育子「都市部で働く既婚女性の老後における居住環境に関する研究：プサン

広域市を中心に」『都市住宅学』40, pp. 140-151

塘利枝子「子離れの国際比較：韓国・中国・台湾からの調査報告」『児童心理』57(7),

pp. 690-694

塘利枝子・出羽孝行・高向山「日本・韓国・中国の小学校教科書に反映された親役割の

変化：親役割の変化と社会状況との関係」『平安女学院大学研究年報』4, pp. 31-46

野村伸一「朝鮮時代の仏画にみる女性生活像」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・

コミュニケーション』30, pp. 63-102

朴永奎「植民地朝鮮における女性教育：師範教育を中心に」『九州大学大学院人間環境学

研究院国際教育文化研究』3, pp. 41-52

韓慶恵・金柱賢・李貞和「韓国100歳老人の生活と家族関係」『家族社会学研究』14(2),

pp. 115-121

方銀鈴「韓国の礼節教育」日本家庭教育学会『家庭フォーラム』11, pp. 10-16

秀村研二「儒教という伝統：韓国はどこまで‘儒教社会’か」『アジア遊学』50, 勉誠出版,

pp. 132-142

玄美兒「韓国の女性政策にみる“賢母良妻”規範：朴正熙政権から全斗煥政権までを

中心に」『家族社会学研究』15(1), pp. 17-26

黄星賀「韓国の共同育児運動に関する一考察」『仏教大学総合研究所紀要』10, pp. 131-145

黄星賀「韓国の保育所(オリニチップ)に関する研究(1)」『仏教大学大学院紀要』31,

pp. 305-314

淵上恭子「人工生殖時代の朝鮮儒教：現代韓国における生殖テクノロジーと祖先崇拜」

国際宗教研究所編『現代宗教』, pp. 90-116

古郡頼子「日本、韓国、ニュージーランドにみる女性労働と育児問題」『家計経済研究』59,

pp. 47-55

べ正仁「日本韓国米国の高齢者を含む世帯構成の変化に関する研究」『日本建築学会計画系

論文集』563, pp. 263-268

洪賢秀『文明研中間研究報告no.2 韓国における発生・生殖技術への対応：‘生命倫理’の

立法化過程』科学技術文明研究所

- 本田洋「地域社会と儒教：南原地域の中小両班と吏族の事例から」『アジア遊学』50,
勉誠出版, pp. 94-107
- 牧野カツコ・姜守貞・李淑賢「父親の職業と家庭役割の葛藤：日本と韓国の比較から」
『お茶の水女子大学人文科学紀要』56, pp. 285-299
- 三宅俊治・姜明求・御葉袋啓子「日本・韓国・中国の若者の‘不安構造’及びその成分の
比較」『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢』5, pp. 147-174
- 本村汎・崔誠祐「韓国における在宅高齢者の主観的幸福感の研究：趣味生活・グループ活動
・老人福祉館の利用との関連」『梅花女子大学文学部紀要 人間福祉編』37, pp. 37-65
- 山地久美子「韓国の新人口政策：未婚率の上昇と出生奨励政策」『国際文化学』9,
pp. 127-144
- 山地久美子「新社会運動としての戸主制廃止運動：現代韓国における男児選好と民法改正
運動」韓国・朝鮮文化研究会編『韓国朝鮮の文化と社会』2, pp. 143-181
- 梁貞淑「家族の氏：子供にとっての夫婦別氏制」日韓文化交流基金編『訪日学術研究者
論文集 一般』10, pp. 395-421
- 吉田光男「韓国の士族・氏族・族譜：儒教の社会化」『アジア遊学』50, 勉誠出版,
pp. 119-131
- Lee Kyoung-Won・呉貞玉「再婚に関する韓国と日本の比較研究」『家族関係学』22,
pp. 109-120
- 2004**
- 李具京淑「韓国なぜ戸主制廃止が必要なのか」アジア女性資料センター『女たちの21世紀』
37, pp. 32-37
- 李善姬「巫俗文化と女性、そして‘チブ(家)’に対する再考察：韓国全羅南道珍島の事例を
中心に」『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』3, pp. 241-252
- 李文雄（都知美訳）「血縁観の持続と変容：現代韓国の親族関係」『都市文化研究』3,
pp. 194-202
- 落合恵美子・山根 真理・宮坂 靖子ほか「変容するアジア諸社会における育児援助ネット
ワークとジェンダー：中国・タイ・シンガポール・台湾・韓国・日本」『教育学研究』
71(4), pp. 382-398
- キムジンスク「韓国の夫婦と子の姓：その歴史と課題」『総合女性研究』21, pp. 121-123
- 金嘯洙「韓国における家族の現状と家族法の動向」山中美由紀編『変貌するアジアの家族：
比較・文化・ジェンダー』昭和堂, pp. 141-166
- 金嘯洙「龍谷大学国際社会文化研究所シンポジウム 日韓両国における家族の現在：韓国に
おける家族の現状と家族法の動向」『戸籍時報』565, pp. 15-27
- 木村誠子「韓国における老人福祉政策の展開：老人福祉施設に関する一考察」『看護・保健
科学研究』4(1), pp. 115-122
- 工藤由貴子「Behavioral and Social Sciences アジア・オセアニア地域の家族：韓国・

- 中国・台湾・日本からの報告 『ジェロントロジー』 16(3), pp. 217-220
- 高雲基「韓国の中世における女性」野村伸一編『東アジアの女神信仰と女性生活』
慶応義塾大学出版会, pp. 473-500
- 嶋陸奥彦「長期的視野における韓国の家族 世帯構成の組み替え可能性を中心に」
佐藤康行ほか編『変貌する東アジアの家族』早稲田大学出版部, pp. 81-109
- 清水嘉子「母親の育児ストレス国際比較：韓国(京畿道)・中国(北京)・ブラジル
(ブラジル)・日本(静岡)から」『母性衛生』 45(2), pp. 159-169
- 須川英徳「‘族譜’という伝説」『アジア遊学』 no. 67, 勉誠出版, pp. 95-108
- 菅原順也「韓国社会の性役割の‘多様性’・農村家族の経済活動を中心に」東北大学文学会
『文化』 67(3・4), pp. 307-292
- 谷田恵美子「農村女性高齢者とネットワーク：日本と韓国の比較」『看護・保健科学研究』
4(1), pp. 23-40
- 玉里恵美子「韓国農村部における在家老人福祉の現況と課題：全羅南道長城郡‘フラン
チェスコの家’の事例を中心に」『高知女子大学紀要 社会福祉学部編』 53, pp. 1-11
- 張和卿「韓国のテレビドラマにおける‘結婚物語’の分析」山中美由紀編『変貌するアジア
の家族：比較・文化・ジェンダー』昭和堂, pp. 201-226
- 崔吉城「韓国における祖先崇拜の歴史と現状：男児選好の問題を中心に」池上良正ほか編
『岩波講座宗教8 絆：共同性を問い直す』岩波書店, pp. 187-213
- 丁志映・小谷部育子・小林秀樹「空間構造の変容からみる集住環境計画に関する研究：
韓国都市部の家族のケーススタディー」『日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・
人間生活学研究科』 10, pp. 69-77
- 津波高志「済州島一海村における家族：世帯構成と夫婦関係を中心に」佐藤康行ほか編
『変貌する東アジアの家族』早稲田大学出版部, pp. 19-48
- 中西尋子「ある新宗教教団における結婚の意味づけ」山中美由紀編『変貌するアジアの家族
：比較・文化・ジェンダー』昭和堂, pp. 227-253
- 南富鎮「梶山秀之‘族譜’にみる新植民地主義」no. 67, 勉誠出版, pp. 109-120
- 朴宣美「植民地朝鮮における‘良妻賢母’というジェンダー規範：女性知識人の議論の分析
を中心として」女性史総合研究会編『女性史学』 14, pp. 13-37
- 朴峰寛・三谷鉄夫・鈴木克典「韓国社会における老人福祉に関する研究：釜山市地域を中心
として」『北海道浅井学園大学 人間福祉研究』 7, pp. 1-20
- 春木育美「90年代以降の韓国における女性政策の展開とその背景」『女性学研究』 11,
pp. 77-88
- 韓林花「済州島の海女共同体の生と仕事」野村伸一編『東アジアの女神信仰と女性生活』
慶応義塾大学出版会, pp. 389-437
- 淵上恭子「‘シバジ’と第三者生殖医療：韓国の不妊治療にみる代理出産と卵子提供」
診断と治療社編『産科と婦人科』 71(6), pp. 799-804

洪上旭「価値意識の変化と韓国女性の暮らしと地位」山中美由紀編『変貌するアジアの家族
：比較・文化・ジェンダー』昭和堂, pp. 167-200

山下英愛「戸主制廃止へ動く韓国」アジア女性資料センター『女たちの21世紀』37,
pp. 37-39

梁鉉娥（河かおる訳）「家族と社会 韓国的アイデンティティの暗い基盤：家父長制と植民
地性」『現代思想』32(10), pp. 103-115

吉川美華「韓国における親族相続法の制定過程についての一考察」韓国・朝鮮文化研究会編
『韓国朝鮮の文化と社会』3, pp. 117-151